

婦人の修養

云ふ勿れ婦人は見識狭しと、云ふ勿れ婦人は知識淺薄なりと。修養の機會を與へずして、此の如く云ふは、誠に云ふもの、誤なり、妙齡二八即出で、人の家に行く、妻の讀書を喜ばざる夫あり、妻の交際を好まざる夫あり、而して少き妻は、一切を抛ちて、夫の給仕に侍せざるべからず、庖厨を司とらざるべからず、裁縫を自らせざるべからず、會計出納の任を負はざるべからず、子を育せざるべからず、而して最も困難なる舅姑の機嫌を取るを勉めざるべからず、日夕此の如く忙殺せられて、遂に自己修養の機會を與へられず、女學校時代の智識は漸く印象を薄らぐると同時に、讀書の興味も亦厭伏せらる、修養せしめずして、而して敢て婦人の知見乏しさを誹る。誠に誹る者

の罪にわらずとせんや。婦人に修養の機會を與へよ、これ實に婦人の地位を進め依つて又社會の發達を大にする所以なり、

保育法改良の第一看手

幼稚園に於て、幼児に文字を教へて得々たる保姆あり、これ明に幼稚園の主旨に反する所、幼児將來の發達を阻害すること大なり。目前の成績に誇らんが爲めに、複雑極りなき困難の手法を課し、併も幼兒をして爲さしめず、保姆自ら之を仕上げた土産と稱して持ち歸らしむる者あり。爲さんと欲する幼兒の活動力を阻害し、工夫想像の力を働かしめず、遂には、自ら働かずして、一も二も他人に依頼する傾向を助成せしむるものなり。擧げ來れば此の如きもの頗る多からん。幼稚園保育